

山口地域における音楽振興の報告と考察

山口オペラアカデミーの活動を題材として

白岩 洵*・林 満理子**・脇淵 陽子***

Report and Consideration of Music Promotion in Yamaguchi Area:
Activities of Yamaguchi Opera Academy as an Object of Research

SHIRAIWA Jun*, HAYASHI Mariko**, WAKIBUCHI Yoko***

(Received September 22, 2022)

本研究の執筆にあたる白岩、林、脇淵が2021年設立した「山口オペラアカデミー」の活動を題材に、山口地域における音楽振興についての報告と考察を行う。同アカデミーは2022年3月22日に第2回目のオペラに関するセミナーとコンサートを実施した。当日のコンサート来場者に対して実施したアンケートの記述を、「文化的価値」「社会的価値」「経済的価値」という3つの視座を引用し分析と考察にあたった。分析と考察を通して、当該イベントに対して期待されている価値、あるいはイベントが内包する価値が明確になった。今後はセミナー参加者や聴講生、運営など観測範囲を広げることによって、イベント全体の価値についての多角的な検証を行うことが意味を持っていくだろう。

はじめに

「演じながら歌うなんて複雑ではないか」と、オペラに出演した筆者に対して、来場した方から言われた経験がある。歌には他の器楽奏と異なり、ほとんどの楽曲には歌詞が伴っている。歌詞を歌うということは本来的に誰かの言葉を代弁する、演技性が内在している。つまり、そもそもその音楽に備わっている演技性を理解し身体に表出することは、楽曲の分析から音楽理解へとアプローチするよりも、よほど容易な音楽理解に繋がると考える。

現代日本において、演者が歌い演じる音楽劇はミュージカルジャンルなど、国内発の作品だけあげても非常に活況である。しかし、あえてオペラという古典作品にこだわり、地域におけるオペラ文化の振興という課題意識をもとに、本研究の執筆にあたる白岩、林、脇淵は「山口オペラアカデミー」を設立した。運営にあたっては、如何に一過性のない開催に終わらせず継続し、地域の特性に合わせた文化として浸透し発展をさせていくかが課題である。

芸術文化の振興という面では、各都市における芸術フェスティバルに対して多くの先行研究がある。吉本

(1995)は「芸術フェスティバルの基本的性格は、①芸術作品の紹介、②芸術創造、③都市(芸術)活性化、④地域振興、⑤芸術の教育普及の5つに集約され、実際にはこれらが複合されているものも多い」と述べている。当該団体の設立要旨としては、声楽を愛好しかつオペラに関心のある市民に向けて「⑤芸術の教育普及」を行い演者やスタッフを育てながら、成果として古典オペラ作品を中心とした「①芸術作品の紹介」を行うことが理想である。また、これらのサイクルをどのように周辺地域に対してリーチするかも並行して考えなければならない。

本研究では、山口オペラアカデミーの活動を題材に、山口地域における音楽振興についての実践報告を行う。そして、来場者に対するアンケートを、勝村ら(2009)が芸術フェスティバルを評価する際に用いた「文化的価値」「社会的価値」「経済的価値」という3つの視座を引用し分析・考察にあたり、その上で山口地域における音楽振興への今後の展望と課題を述べたい。

1. 山口オペラアカデミー

本項では山口オペラアカデミーとこれまでの活動につ

* 山口大学教育学部, 〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1, jun-s49@yamaguchi-u.ac.jp ** 大分県立文化芸術短期大学 *** 山口芸術短期大学

いて紹介したい。

山口オペラアカデミーとは、山口県内でのオペラ振興、オペラに関する人材育成、そしてオペラに関する研究を目的に2021年に組織された任意団体である。

これまでの実績としては、2021年8月21日に、声楽を専門とする、あるいは声楽を嗜む受講生に向け第1回目のオペラセミナーを開催している。会場は山口県教育会館の第1研修室を使用した。天井がドーム型の形状をとり豊かな響きが得られ、室内楽や声楽のアンサンブルを行うには適した会場である。対象は「オペラに興味のある高校生以上、大人も歓迎」とし、これから専門教育を志向する人から、生涯教育として取り組む方まで幅広く募った。応募のあった受講生の人数は4名、内訳については下記の通りである。また聴講生は2名であった。

声種別：ソプラノ2名、バリトン2名
 年代別：10代1名、20代2名、50代1名
 属性別：大学生3名、社会人1名

受講生へはモーツァルトが作曲したオペラの二重唱を抜粋し課題とした。選曲の意図としては、まず演技の導入として1対1の対話を意識させることを目指し、二重唱に限定した。また、ロマン派以降の楽曲を選択した場合、受講生にとって演奏の難易度も上がってしまうことを危惧し、最もオーソドックスなモーツァルトの楽曲に限定した。曲目は下記の通りである。

曲目：“Là ci darem la mano” from Don Giovanni (W.A.Mozart)
 配役：Zerlina (Soprano), Don Giovanni (Baritone)

曲目：“Crudel! Perché finora” from Le nozze di Figaro (W.A.Mozart)
 配役：Susanna (Soprano), Il Conte (Baritone)

曲目：“Canzonetta sull’aria” from Le nozze di Figaro (W.A.Mozart)
 配役：Susanna (Soprano), La Contessa (Soprano)

午前10時に開会し、午前中はアンサンブルを中心とした音楽練習、午後から演技を交えて指導を展開した【写真1】。最終的な成果披露としてクローズドな形であったが演奏発表を行い17時に終了した。新型コロナウイルスの感染状況も拡大する状況であったためセミナーの開催自体危ぶまれたが、講師、受講生、聴講生それぞれに

対する感染対策の徹底を持って対応をした。対策としては一般的な健康観察に加え、演技・演出においても向かい合わせで歌う状況や、接触を避けつつ、いかに演者同士のやり取りの不自然さをなくせるか腐心して検討された。演奏発表の際もマスク着用を課したが、お互いに表情のやり取りに制約があり、演技の面で足枷となった。

この時の開催では、新型コロナウイルスの感染に対する懸念もあり、あくまで声楽に関心のある受講生に向けた(閉じた)開催となったため、周辺地域へのリーチが課題となった。また実施会場を1か所にしてしまうと、当然受け入れられる定員が少なくなってしまうため、適切な会場設定についても課題となった。以上の内容を反省材料とし、2022年3月12日には第2回目のオペラセミナーとコンサートを開催した。本研究ではこの第2回目の報告が主眼となっている。次項では第2回目のセミナーについて報告したい。



【写真1】第1回オペラセミナーの様子

2. 第2回オペラセミナーの概要

第2回オペラセミナーは2022年3月12日に山口県旧県会議事堂にて開催した。山口県旧県会議事堂とは大熊喜邦や武田五一が設計にあたり、大正5年(1916年)に完工した建築物である【写真2】。「日本の様式や(当時の)欧米の最新デザインを大胆に取り入れた点」が最大の魅力と言われている(山口県庁, 2021)。1983年9月27日に県の有形文化財に、そして翌1984年12月28日国の重要文化財に指定された。これまでに2度の大きな保存修理が行われ、現在は市民に向け多目的のスペースとして貸し出しを行っている。建物中央に位置する議場【写真3】の他、議員控室【写真4】など、同じ建物内にセミナーに使用できる広さをもった部屋が複数あり、前回の反省材料に応えられる点は、会場を決定する大きな動機となった。ただし、当該施設にはピアノの備え付けがないため、実施にあたっては楽器を持ち込む必要がある。今回については電子ピアノを持ち込み対応した。



【写真2】旧県会議事堂正面（山口県庁HPより）



【写真3】議場（山口県庁HPより）



【写真4】議員控室（山口県庁HPより）

今回は事前の周知にも力を入れたおかげか、受講生が10名と前回の倍以上の人数となった。内訳については下記に記載する。また聴講生は11名であった。

声種別：ソプラノ5名、カウンターテナー1名、テノール1名、バリトン2名、バス1名
 年代別：10代2名、20代7名、50代1名
 属性別：高校生2名、大学生3名、社会人5名

課題曲については、第1回で主眼とした「1対1の対話を意識させる」ことを念頭に、（一曲のみ三重唱の例外はあるが）基本は二重唱を中心とした選曲とした。曲目は下記の通りである。

曲目：“Caro! Bella!” from Giulio Cesare (G.F.Händel)
 配役：Cleopatra (Soprano) , Cesare (Counter Tenor)

曲目：“Cosa sento!” from Le nozze di Figaro (W.A.Mozart) ※重複演目
 配役：Susanna (Soprano) , Don Basilio (Tenor) , Il Conte (Baritone) , Cherbino※黙役

曲目：“Pa pa pa” from Die Zauberflöte (W.A.Mozart) ※重複演目
 配役：Papagena (Soprano) , Papageno (Bass)

曲目：“Là ci darem la mano” from Don Giovanni (W.A.Mozart) ※重複演目
 配役：Zerlina (Soprano) , Don Giovanni (Baritone)

曲目：“Ah guarda sorella” from Così fan tutte (W.A.Mozart)
 配役：Fiordiligi (Soprano) , Dorabella (Soprano)

曲目：“Il core vi dono” from Così fan tutte (W.A.Mozart)
 配役：Dorabella (Soprano) , Guglielmo (Baritone)

曲目：“Libiamo, ne’lieti calici” from La Traviata (G.Verdi)
 配役：Violetta (Soprano) , Alfredo (Tenor)

曲目：“Suse, liebe Suse” from Hänsel und Gretel (E.Humperdink) ※日本語訳詞
 配役：Gretel (Soprano) , Hänsel (Soprano)

曲目：“Brüderchen, komm tanz mit mir” from Hänsel und Gretel (E.Humperdink) ※日本語訳詞
 配役：Gretel (Soprano) , Hänsel (Counter Tenor)

今回は10名参加という点、また初めて高校生が参加した点、さらに受講生は最低でも二演目に参加するという条件をそこに加味し、選曲については柔軟に検討された。高校生などオペラへの経験のない受講生は一演目のみを課したが、同じ演目で相手役を変え取り組んでもらった。最終的に9演目、演目の重複を換算すると12グループとなった。複数の部屋を使用し、同時並行でセミナーを実施することで実施可能であると判断した。また演目の半数以上はモーツァルトであったが、オペラの経験者も参加していた点からロマン派以降の作曲家であるヴェ

ルディやフンパーディンクの作品も今回から取り上げることとなった。なお、フンパーティンクの作品は日本語訳詞にて歌唱した。

当日の朝10時より開会し、午前中は3部屋に分かれ演技をつけない音楽を中心とした指導を展開し、午後13時から17時までは2部屋に分かれ歌唱と演技双方にわたる指導をおこなった【写真5】。

次項では同日に実施したオペラコンサートについて報告したい。



【写真5】セミナーの様子

3. オペラコンサートの概要

当日の19時よりコンサートを実施した【写真6】。周辺地域に対して、聴講の他にもセミナーの成果披露を広くリーチすることを期待し、今回から導入を決定した。出演はセミナー受講生と講師である。演目はセミナーで扱った曲目に加え、講師による演奏を交えて実施した。プログラム構成は下記の通りである。

(受講生演奏)

- ①“Caro! Bella!” from Giulio Cesare (G.F.Händel)
- ②“Là ci darem la mano” from Don Giovanni (W.A.Mozart) ※重複演目
- ③“Cosa sento!” from Le nozze di Figaro (W.A.Mozart) ※重複演目
- ④“Pa pa pa” from Die Zauberflöte (W.A.Mozart) ※重複演目
- ⑤“Ah guarda sorella” from Cossi fan tutte (W.A.Mozart)
- ⑥“Il core vi dono” from Cossi fan tutte (W.A.Mozart)

〈休憩〉

⑦“Libiamo, ne’lieti calici” from La Traviata (G.Verdi)

⑧“Suse, liebe Suse” from Hänsel und Gretel (E.Humperdink) ※日本語訳詞

⑨“Brüderchen, komm tanz mit mir” from Hänsel und Gretel (E.Humperdink) ※日本語訳詞

(講師演奏)

⑩“Cinque …dieci…” from Le nozze di Figaro (W.A.Mozart)

⑪“Se a caso Madama” from Le nozze di Figaro (W.A.Mozart)

⑫“Bravo signor Padrone ~ Se vuol ballare” from Le nozze di Figaro (W.A.Mozart)

⑬“In umomini, in soldati” from Cossi fan tutte (W.A.Mozart)

⑭“Lippen schweigen” from Die Lustige Witwe (F.Lehar)



【画像6】コンサートのポスター

コンサート全体の進行を白岩と林で担当し、曲目の解説と受講生の紹介を交えながら、完成されたステージとしてパッケージするよりも、内幕を披露し制作の過程を共有するような構成をとった【写真7】。



【写真7】オペラコンサートの様子

最終的な来場者は関係者を除き計66名であった。こちらが想定していたよりも反響が大きく、当日券を求めて来場いただいた方の中には、座席の確保が難しくお引取りいただくケースも確認された。事前のチケット管理など運営として大きな反省材料である。

4. アンケート分析と考察

今回のアンケート分析では、コンサート来場者へのアンケートを対象に分析を行いたい。アンケートの回収数が37、その内の有効回答数が30である。アンケート内における自由記述欄を分析対象とし、その他には細かな尺度を問う項目は設けていない。自由記述に書かれたメッセージが、「文化的価値」「社会的価値」「経済的価値」いずれに属するのか（いずれにも属しないものを含め）分類を行う。まずは、「文化的価値」「社会的価値」「経済的価値」について整理をしたい。

勝村ら（2009）から引用すると、「文化的価値」は第二次世界大戦後に勃興した芸術フェスティバルにおいては「芸術作品の研究開発の機能や新しい観客を新しい観客を開拓する機能」など、文化復興の面が期待されていた。本研究においては、音楽振興やコンサートへの新規需要など、音楽文化固有の価値について言及されたものを「文化的価値」と分類した。

「社会的価値」とは、「コミュニティや地域の社会的な状況に影響を及ぼすという意味での社会的価値」を指すとしている。本研究においてはオペラという音楽文化に寄らない、架橋的な言及について「社会的価値」と分類した。

「経済的価値」とは、「地域経済に対するインパクトとしての経済的価値」を指すとしている。本研究においても、地域経済に関する言及について「経済的価値」と分類した。

以上の視座をもとにアンケートの分析を行った。分析にあたっては、可能な限り記述をセンテンスで区切った上でグルーピングし、それぞれに下位概念としてタイト

ルを設けた。また、それぞれのグループが上位概念として「文化的価値」「社会的価値」「経済的価値」のいずれに属するのか検討を行った。以下にそれぞれの結果と考察を記したい。なお、賛辞や一部の応援、アドバイス等については上記の概念には属さず、本研究に直接的な関与がないと判断し割愛している。割愛した内容については十分吟味し、今後の運営に反映していきたい。

4-1. 文化的価値

以下に「文化的価値」として分類した記述を掲載する。

【オペラ上演への期待】

- ・このセミナーを続けていただき、山口の地で本格的なオペラ公演ができれば素晴らしいことだと思います。
- ・オペラファンとして山口でのオペラ上演期待しています。
- ・山口ではオペラ等を演奏したり聴く機会がほぼ無いためすばらしい取り組みだと思います。

【需要の喚起】

- ・初めてオペラを鑑賞させていただきました。これを機に今後も是非見に行きたいと思います。
- ・オペラ曲の生演奏ははじめて聞かせて頂きました。少し苦手でしたが、とても身近に感じました。
- ・これからも度々見させてください。
- ・また来ます！
- ・また機会があれば観たいと思いました。
- ・次回を楽しみにしています。

【芸術作品の紹介】

- ・素敵な演目ばかりでした。
- ・聞きなれた演目で楽しかったです。
- ・どのプログラムもステキでした。

「山口ではオペラ等を演奏したり聴く機会がほぼ無い」身の回りでのオペラの上演機会の少ない環境の中、「山口の地で本格的なオペラ公演」と、当該団体に「オペラ上演の期待」があることが確認できた。

また「初めてオペラを鑑賞」「オペラ曲の生演奏ははじめて」など、これまで需要がなかった層にもリーチできたこと。また「今後も是非見に行きたい」「また来ます！」など、一定数ではあるが、今後の「需要の喚起」繋がったことがわかる。

「素敵な演目」「聞きなれた演目」と演奏されたプログラムへの言及も見られた。当該団体の設立要旨にも含まれる「芸術作品の紹介」について、一定のリアクションがあり、かつ好意的に聞かれていたことが確認できた。

4-2. 社会的価値

以下に「社会的価値」として分類した記述を掲載する。

<p>【教育の場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生の頑張りがすばらしかったです。 ・中学生、高校生から一般の方まで幅広いセミナー参加者の方の歌声が世代を越えて素晴らしいです。 ・先生がたのご指導で次なる担い手を育成され今後がととても楽しみです。 ・若い人のこれからが楽しみです。 ・仕事の都合でコンサートから参加しましたが、機会があればセミナーも受講したいです。 ・基礎から学べる場があればぜひ受けてみたいです。
<p>【学習機会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌う時の動きの付け方が勉強になりました。 ・「乾杯の歌」は今レッスン中です。お手本にします。 ・同じ曲を続けて違う方が歌われるのは、とても勉強になりました。 ・声楽（独唱）とは違った面白さを感じることができました。
<p>【歴史的施設の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2階席はほぼ演者さんが見えないので、演者が見えづらい席は使用せず、見える席をもう少し作るなど席の場所に工夫があるとさらに嬉しいです。（自由がきかない場所だとは思いますが） ・会場も歴史を感じて良かったです。 ・会場は雰囲気があって良いと思いますが、2Fからでは歌っている人が見えずどうなんだろうと思いました。歌声メインのコンサートだとは思いますが、歌っておられる時の表情なんかもあるでしょうからやっぱり見えた方が良いです。主催者の方も2Fの客が見えるか見えないかは全く考慮しておられないのでとても残念でした。お若い方の息吹が感じられただけにとっても残念に思いました。熟考を望みます。 ・会場選びもとても素敵でした。 ・建物の雰囲気がとても良いと思います。 ・古い建物（旧議会棟）で、若い人の歌声が響くのは、とても感心しました。今後もいろいろな場所で歌声を響かせて欲しいと思います。 ・会場も演奏も◎です

「高校生の頑張り」という言葉に始まり、「幅広いセミナー参加者」や「次なる担い手を育成」など、当該団体が行ったセミナーとコンサートについて、専門的な「教育の場」として期待されていることがわかる。また、「機会があればセミナーも受講したい」や「基礎から学べる場があれば」という、専門的な音楽教育への動機と

して作用している点も非常に重要である。についてはニーズに応えるべく、受け皿のあり方についても検討が必要である。

また上記の内容とオーバーラップするが「勉強になりました」「声楽（独唱）とは違った面白さ」など、おそらく声楽の経験者か、一定以上の音楽知識を有した層からの記述と推測できるが、コンサートそのものが「学習機会」として機能していたことがわかる。これは、プロフェッショナルによるコンサートではあまり見られない記述ではないだろうか。セミナーとコンサートに関して、異なる角度からの意義が見える。

「会場は雰囲気があって良い」「建物の雰囲気がとても良い」など、今回会場として使用した山口県旧県会議事堂について「歴史的施設の活用」への肯定的意見が多く確認された。音楽文化と文化財とのマッチングによって施設そのものにも脚光があたり、意義ある利用に繋がったことは喜ぶべきことである。ただし「2階席はほぼ演者さんが見えない」「2Fからでは歌っている人が見えず」など、建物の特性を理解せずに活用してしまった点は大いに反省したい。その地域固有の場所や空間を活用することで、芸術そして文化財それぞれの魅力が再発見される様は、これまでの芸術フェスティバルなどでも多々見られた光景である。より自覚的に場所や空間の活用について検討する必要がある。

4-3. 経済的価値

残念ながら経済的価値に関する記述を発見することはできなかった。調査方法や調査範囲の改善が求められる。

おわりに

本研究においては、自由記述のアンケートを「文化的価値」「社会的価値」「経済的価値」という3つの視座を持ち分析と考察をすることによって、当該イベントに対して期待されている価値、あるいはイベント（または活動）が内包する価値が明確になった。ただし、今回はあくまでコンサート来場者のアンケートに限った分析と考察である。今後はセミナー参加者や聴講生、運営など観測範囲を広げることによって、イベント全体の価値についての多角的な検証を行うことが意味を持っていくだろう。また、対象もアンケートだけでなく、インタビューなども視野に入れ、質的な研究によっても補完が求められる。今後も実践と研究とを両輪で動かし、当該地域において求められる音楽振興のニーズを掘り起こしつつ、活動のリーチを広げていきたい。

引用・参考文献

勝村（松本）文子・後藤和子・吉川郷主（2009）：「観

客アンケートにもとづくこどものための演劇フェスティバルの評価についての分析－キジムナーフェスタを事例として－ 『文化経済学』26号, 文化経済学会, pp.49-61

吉本光宏、片岡真実（1995）：「国内外の芸術フェスティバルに関する実態調査から」 『ニッセイ基礎研究所調査月報』88巻, ニッセイ基礎研究所, pp.45-78

山口県総務部管財課（2021）：「旧県会議事堂復原・トップページ」 (<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/4/12361.html> 最終閲覧日：2022年9月14日)

山口県総務部管財課（2014）：「旧県会議事堂復原・歴史的概要」 (<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/4/12356.html> 最終閲覧日：2022年9月14日)